

平成24年緑化推進運動功労者
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

[個人]

川田 淳 (北海道河東郡音更町)
楠美 タヒ (青森県青森市)

[団体]

株式会社ケーエムエフ 花泉工場 (岩手県一関市)
浪江植林ボランティア (福島県双葉郡浪江町)
笠間市立友部中学校 (茨城県笠間市)
特定非営利活動法人 フォレストぐんま21 (群馬県前橋市)
高崎市立矢中中学校 (群馬県高崎市)
国営昭和記念公園こもれびの里クラブ (東京都立川市)
特定非営利活動法人 小網代野外活動調整
会議 (神奈川県横浜市)
富山市立大久保小学校 (富山県富山市)
特定非営利活動法人 ひょうご森の倶楽部 (兵庫県神戸市)
飯南町 (島根県飯石郡飯南町)
馬野原夢街道 (島根県邑智郡邑南町)

[個人]

かわた きよし
川 田 淳

(大正15年4月25日生 86歳)

住 所 北海道河東郡音更町新通九丁目2番地

<功績の概要>

同氏は、建設業を創業しその傍ら、長年にわたり地域の環境保全と緑化推進に積極的に取り組んでいる。

失われた森林を再生し、後生に残すために「21世紀の^{おとわ}音和を創る会」を設立し、「音和の森」を開設。

また、自身が理事長を務める「特定非営利活動法人 トカプチの森」で管理・運営を行い、森林体験学習や調査研究活動を実施するなど自然林の保存に尽力。区域の一部は、保健保安林の指定を受けている。

「池田の森」として造成した社有林は、地域住民の憩いの場となっており、また、植樹活動では世代間交流を通じて子どもたちに体験型の環境教育を行っている。

更に、観察会の開催や野草の栽培、植物園の環境整備等を行うなど、強いリーダーシップを発揮して精力的、発展的に活動を繰り広げており、緑化推進及び自然環境の保全に寄与している。

[個人]

楠 美 夕 ヒ

(昭和10年2月18日生 77歳)

住 所 青森県青森市千刈四丁目14番14号

<功績の概要>

同氏は、平成8年、「青森県緑の募金運営協議会」の発足とともに同会長に就任。以来、15年にわたり、会長として青森県の緑の募金事業の発展に多大に貢献。

青森県の職員として、平成4年には下北地域の漁業協同組合女性部(アムレス)の結成・指導に携わり、また、退職後も豊かな海づくりのため、10数年間植林指導を行い、漁業者による植樹活動を定着させた。

平成15年には青森県農林水産業サポーター育成推進協議会を設立し、青森中央学院大学に在籍するアジアからの留学生に対して、青森県の主要産業や文化を体験させ、理解してもらおう農林漁業・文化体験研修事業を主宰。この中で、森林・林業の学習を通じて緑化事業の必要性を普及しており、国際的な緑化推進活動にも貢献している。

[団 体]

かぶしきがいしや はないずみこうじょう
株式会社ケーエムエフ 花泉工場

所 在 地 岩手県一関市花泉町涌津字石畳85番地28

代 表 者 代表取締役社長 小島 浩光

<功績の概要>

同社は、工場周囲の景観向上を目指し、平成3年に「庭園の中の工場」をテーマとした新工場を建設。敷地面積3万3千㎡のうち緑地率は67%と高い水準を誇っている。

また、同社は、花泉町花いっぱいコンクール職場花壇の部で昭和61年以降、毎年表彰を受け、岩手県大会や全国大会でも数多くの賞を受賞している。

更に、平成15年には全国花のまちづくり大賞国土交通大臣賞、平成16年には緑化優良工場経済産業大臣表彰を受けており、全国から視察者が多数訪れている。

緑化に当たっては、同社の社是である「継続は力なり」の下、土作りから苗作り、花壇設計、維持管理まで社員一丸となって取り組んでおり、また、敷地沿いの国道の美化活動も行っている。

工場の敷地は、地元の方が自由に散歩や山菜採りが出来るよう無料開放しており、また、20年以上続く地元との合同夏祭り等にも利用されるなど、地域との交流の場となっている。

[団 体]

なみえしよくりん
浪江植林ボランティア

所在地 福島県双葉郡浪江町大字権現堂字南深町43番地
代表者 会長 高田 昇

<功績の概要>

同団体は、「豊かな緑の財産を地元から」をスローガンに、福島県浪江町を流れる請戸川^{うけど}上流域の国有林を活動フィールドとして森林整備を行っている。

また、「浪江町ボランティア協議会」の会員として、植林活動以外にも町内を流れる請戸川、高瀬川の河川清掃活動を行うとともに、住民に参加の働きかけを行うなど各種ボランティア活動の推進に努めている。

更に、同団体による植林活動を契機として、平成10年より浪江町が植林ボランティア活動を行うようになったほか、近隣の町にも活動の輪が広がるなど、地域への緑化思想の普及啓発に大きな成果を上げている。

同団体は、毎年4月29日を中心に、ボランティア参加者を募って植林や枝打ち等の緑化活動を行っており、平成22年には地域の住民121名が参加し、サツキやアジサイを510本植樹した。

現在、福島第一原子力発電所の事故により活動場所が警戒区域に指定され、会員も避難中のため同団体の活動は休止状態であるが、昨年10月8日には会員が集まり、今後、活動が出来る状況になればすぐにでも再開することを確認している。

[団 体]

かさましりつともべちゆうがっこう
笠間市立友部中学校

所 在 地 茨城県笠間市中央四丁目1番1号

代 表 者 校長 今泉 寛

<功績の概要>

同校では、平成13年から花いっぱい運動を推進しており、緑化委員会の生徒や教師を中心として、全校で学校花壇の整備や地域へのプランター配布など、環境美化と緑化に努めている。その活動が認められ、平成14年度には、全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部において「文部科学大臣賞」を受賞した。

平成15年度には、第31回花と緑の環境美化コンクール学校の部における「茨城県知事賞」を受賞するとともに、平成16年度には茨城県から5年間の「花いっぱい運動推進モデル校」の指定を受けており、活気ある明るい校風づくりに向け、花壇やプランター、鉢植えによる植物の栽培に全校をあげて取り組んだ。

その結果、地域住民が同校の緑化ボランティア活動に、多数、参加するようになり、生徒と教師は、地元の様々な立場の方と交流しながら、美しい環境づくりを進めている。

また、育てた花を様々な学校行事の装飾に活用するほか、理科等の教科学習や特別支援学級の作業学習に取り入れている。

更に、キクの一人一鉢運動を進めており、育てたキクは公共施設に届けられ、観光客など訪れる人々の目を楽しませている。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじん にじゅういち
特定非営利活動法人 フォレストぐんま21

所在地 群馬県前橋市天川大島町一丁目36番地の15

代表者 理事長 菊川 熙英

<功績の概要>

同団体は、森の自然や生態、景観等の環境を学びながら、21世紀の「森のあるべき姿」を考えた森づくり事業を、群馬県内一円の森林を活動範囲として積極的に実施している。

森林ボランティア団体として、手入れの行き届かない森林の整備に大きく貢献するのみならず、県内全域において、森林ボランティア活動の推進に向けた指導者として、企業・団体等が実施する森林ボランティア活動に対する技術指導や森づくり事業への支援、安全技術講習会の開催、小・中学校での体験型森林環境学習に対する指導・支援を行っている。

更に、福祉施設と連携した間伐材の有効利用や緑の募金活動など緑化推進事業、各種イベントにおける広報活動への取組など、幅広い活動を展開している。

群馬県における森林ボランティア団体の先駆けとして、その姿はまさに他の森林ボランティアの模範となっており、同団体が目標とする「理想の森林づくりへの貢献」を通じた緑化思想の高揚及び森林保全意識の普及啓発に対する貢献は顕著である。

[団 体]

たかききしりつやなかちゆうがっこう
高崎市立矢中中学校

所 在 地 群馬県高崎市矢中町700番地1

代 表 者 校長 古井戸 昌治

<功績の概要>

同校は、地域に開かれた学校づくりを目指すとともに、花づくり活動や緑化活動を教育の基本とし、開校以来27年間にわたり花のある学校づくりに取り組んでいる。

校舎のベランダに配置したペチュニアによる花飾りは、創造性にあふれており、花を通じた情操教育の推進に大きな効果をあげている。

また、「花づくりの輪を広げよう」をテーマに、生徒全員が育てたペチュニアの苗をプランターに植えて公共施設等へ配布するなど、花づくりを通じた地域交流活動にも熱心に取り組んでいる。

PTAや地域住民もこの活動に賛同し協力するなど、同校の活動は、学校の中のみならず、地域住民も参画する大きな緑化活動へと発展しており、その成果は高く評価されるものである。

[団 体]

こくえいしやうわきねんこうえん さと
国 営 昭 和 記 念 公 園 こ も れ び の 里 ク ラ ブ

所 在 地 東京都立川市緑町3173番地

代 表 者 指導員代表 豊泉 喜一

< 功績の概要 >

同団体は、「武蔵野・昭和・農業」をテーマに、かつての暮らしの知恵を再発見し、その文化を伝承して将来へと発展継承することを基本方針として掲げながら、「こもれびの里」において活動を行っている。

同団体は、計画段階から参加者を公募するなど市民参画の手法を取り入れており、市民と行政が協働で公園施設である「こもれびの里」をつくり上げている。

平成19年に供用を開始して以来、雑木林づくりのための植樹やエリア内全域の除草、低木類の刈込、果樹類の剪定、竹林の管理作業に取り組んでおり、平成21年には「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞した。

また、武蔵野の農業や文化を継承するため、炭焼き窯を設置して炭焼きを行うとともに、伝統的な装飾の製作や講話活動を行っている。

更に、堆肥づくりやハナハス、アヤメ等の植付け、管理などを通じて緑地を良好な状態に保っており、なつかしさのある魅力的な「昭和30年代の武蔵野の農村風景」を維持している。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人
こあじろやがいかつどうちようせいかいぎ
小網代野外活動調整会議

所在地 神奈川県横浜市港北区綱島西二丁目5番10号
代表者 代表理事 岸 由二

<功績の概要>

同団体は、希少種を含む多様な生態系が存在している三浦市小網代の森を守るため、神奈川県との協働事業として、平成13年から5年間にわたり、ボランティアの学生等を集いながらビオトープの整備等を行い、貴重な自然環境の保全に大きく寄与した。

また、協働事業終了後も保全活動を継続して実施しており、小網代の森は自然環境を学習する場としても利用されている。

同団体の環境保全活動が端緒となって、同森林の貴重な自然環境が認められることとなり、平成17年に新規としては32年ぶりとなる国土交通大臣による近郊緑地保全地域の指定が行われ、更に、平成23年には近郊緑地特別保全地区の指定を受けた。

近年は、企業による支援を受けながら活動を広げており、自然環境の保全や環境教育を推進している。

[団 体]

とやましりつおおくほししょうがっこう
富山市立大久保小学校

所 在 地 富山県富山市下大久保2430番地

代 表 者 校長 戸田 哲彦

<功績の概要>

同校は、昭和57年より花づくりを教育活動に位置づけ、全校生徒による「花壇広場づくり」を通して、「植物を慈しむ心」「友達と協力する楽しさ」「働くことの心地よさ」「愛校心」を育むことを目標に花づくり活動を実施している。

平成10年からは「一人一鉢栽培」等にも取り組み、異なる学年の生徒達が交流しながら総合的な学習を行っている。

花壇には「ふるさとの山野に自生する植物の広場」を設置し、地域に自生する植物を栽培しており、また、校内を流れる大久保新用水を利用して「ビオトープ」を整備するなど、生徒が地元の自然に触れ合うことで、郷土愛を育むことができる環境づくりに努めている。

平成21年からは「とやまオープンガーデンマップ」に参加しており、生徒たちは地元のグリーンキーパーや有志の方からの指導を受けながら、訪れる見学者との交流を楽しんでいる。

このような地域との交流に取り組んでいる同校の活動は県内外でも高い評価を受けており、県内の各花壇コンクールで優秀な成績を収めているだけでなく、平成21年には「全国花のまちづくりコンクール」において農林水産大臣賞を受賞するなど、その活動は全国の模範となっている。

[団 体]

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人 ひょうご森の倶楽部

所在地 兵庫県神戸市中央区中山手通四丁目1番11号

代表者 会長 福田 正

<功績の概要>

同団体は、平成6年の立ち上がり当初は、兵庫県が実施する「森林ボランティア講座」の修了者で構成されていたが、その後、県下各地へと活動エリアを広げ、現在は「活動地リーダー」を中心に森林ボランティア活動を行っている。

平成23年度の活動エリアは21箇所であるが、その対象は里山、人工林、竹林と様々であり、地元との交流を大切に、時に地域の活性化に一役買いながらボランティア活動に取り組んでいる。

また、リーダー等の研修を通じて指導方法の共有化を図っており、兵庫県が主催する「森林ボランティア講座」の企画、運営、現地指導等を通じ、県が進める「県民総参加の森づくり」の推進に貢献している。

更に、他の森林ボランティア団体への支援のほか、社会貢献活動の一環として森林整備を行う企業等に対するサポート活動を実施している。

また、「森づくりテキスト」の作成や、企業・市民の森づくりを支援するため産学官民が一体となって立ち上げてきた「ひょうご森づくりセンター」への技術的、人的な協力も行っており、同団体の活躍は多岐にわたっている。

[団 体]

い い な ん ち ょ う
飯 南 町

所 在 地 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地

代 表 者 町長 山碕 英樹

<功績の概要>

平成17年から、町の面積の9割を占める山林を活用した「森林セラピー事業」に取り組んでいる。

活動内容は、森林の癒し効果の利用を目的とした「飯南町ふるさとの森ウォーキング」(「森林セラピーロード」の散策)の開催や赤名峠など森林セラピーガイドと共に歩く散策、体験メニュー(りんごやブルーベリー狩りなど)の提供などであり、食事と運動を組み合わせた独自の取組を推進し、同町は、平成22年に「地方自治体表彰」部門で地域づくり総務大臣表彰を受賞した。

また、森林体験を行う「ふれあい講座」や「育樹・伐採イベント」など人と森林との関わりを密接にする取組を通じて森林と環境保全の重要性の啓発を行うとともに、温泉など様々な地域資源を組み合わせ、町の能力を最大限活用した産業の創出に努めている。

同町の積極的な取組は、これから迎える中国横断自動車道「尾道松江線」の開通後に、通過型から滞在型へと町の観光の転換を図るものであり、交流・定住人口の増加にも寄与している。

[団 体]

まの はら ゆめ か い どう
馬野原夢街道

所 在 地 島根県邑智郡邑南町鱒淵1575番地

代 表 者 代表 上田 キヨ子

<功績の概要>

同団体は、昭和60年頃から自主的に花いっぱい活動を実施してきたが、平成元年に同団体が所在する島根県邑智郡邑南町おおなんちょう(旧瑞穂町)において、「ふるさと作り」を目的に、道路沿いに花や花木を植栽する「美し国・みずほ・花と幸せの郷づくり」事業が策定されたことを契機として、正式に結成された。

同団体は、馬野原上・下集落内の馬野原街道(主要地方道はまださくぎせん浜田作木線)の延長3,200mに四季折々の花を植え、除草作業と合わせ周囲の美化に努めている。

平成12年からは、ハートフルロードしまね(島根県道路愛護ボランティア制度)の実施団体に認定され、ますます活発な活動を展開しており、これらの活動は、町のイメージアップにつながるとともに、新たな観光資源となっている。

更に、こうした取組は、地域との連帯感を深めることにより、ふるさとを守り、ふるさとを作ることへも繋がっている。